

「ALI PROJECT」歌詞分析

足立 祐美 永露 風花
河辺 悠里

一 目的

日本語を調べるにあたって、私たちは身近な「歌詞」について研究することにした。研究対象としたのは「ALI PROJECT」という歌手のアルバム六枚である。この歌手の歌はその曲調や、歌詞の中の語彙が他のアーティストと比べて独特な雰囲気を持っており、その世界観には惹きつけられるものがある。元より、三人が共通して知っていることもあり、調査対象とした。この六枚のアルバムを選んだ理由としては、代表作を数多く含んでいるためである。その歌詞を分析し、既に研究されているユーミンの歌詞と比較検討することにより、特徴を明確にしていきたい。

二 方法

調査対象の曲を単語別に分け、アルバムごとにグラフ分けをする。アルバムごとに分けたのは時代ごとの特徴をつかむためである。また、品詞だけではその特徴を把握することが難しかったため、品詞の内容に違いがあるのではないかと、語種（和語、漢語、外来語、混種語）を明らかにした。単語はのべ語数で計算した。

形容動詞は、名詞と助動詞に分けるやり方と形容詞と同等とされるやり方があるが、今回は認めることにする。接頭語、接尾語は、接続して

いる品詞の一部とする。「見える」などは可能動詞として認める。助数詞の数は独立させなかった。

三 対象

今回の調査対象は以下のアルバムとする。

- ・『Aristocracy』（二〇〇一年発売）
- ・『月光嗜好症』（二〇〇三年発売）
- ・『神々の黄昏』（二〇〇五年発売）
- ・『Dilettante』（二〇〇五年発売）
- ・『Psychedelic Insanity』（二〇〇七年発売）
- ・『薔薇架刑』（二〇〇七年発売）

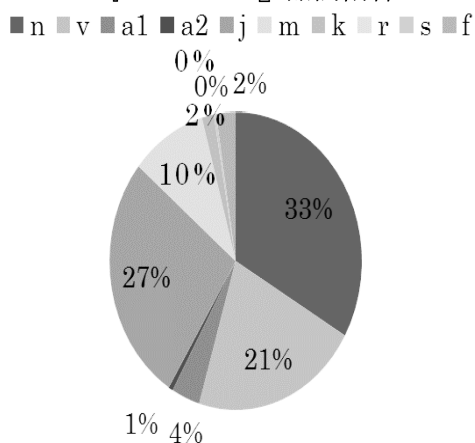
四 結果

調査結果を円グラフにまとめた。「表1—1」から「表1—6」まではアルバム別品詞の含有率、「表2—1」から「表2—6」まではアルバム別語種の含有率を示している。

なお、円グラフの記号はそれぞれ、n≡名詞、v≡動詞、a11（又はa1）≡形容詞、a12（又はa2）≡形容動詞、j≡助詞、m≡助動詞、k≡感嘆、r≡連体詞、接続詞≡s、副詞≡fとする。

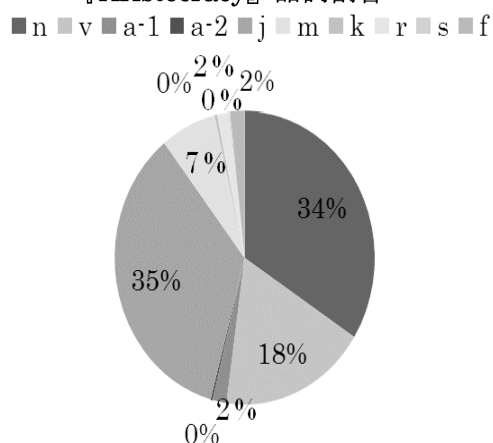
[表 1 - 4]

『Dilettante』品詞割合



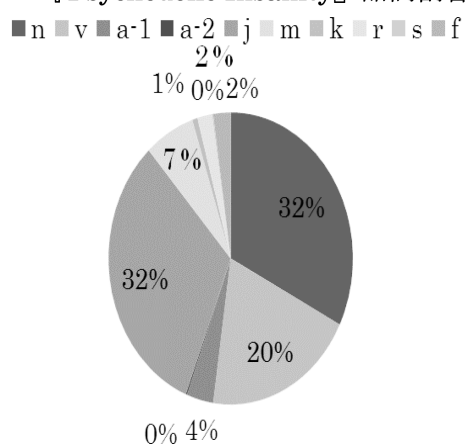
[表 1 - 1]

『Aristocracy』品詞割合



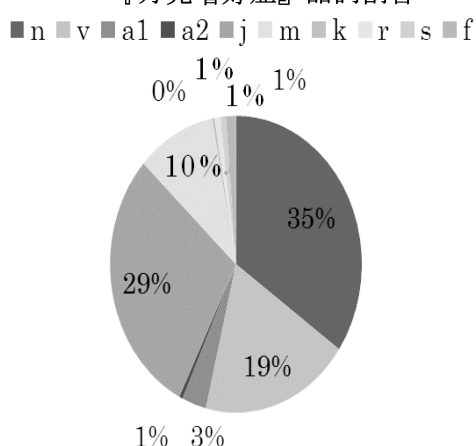
[表 1 - 5]

『Psychedelic Insanity』品詞割合



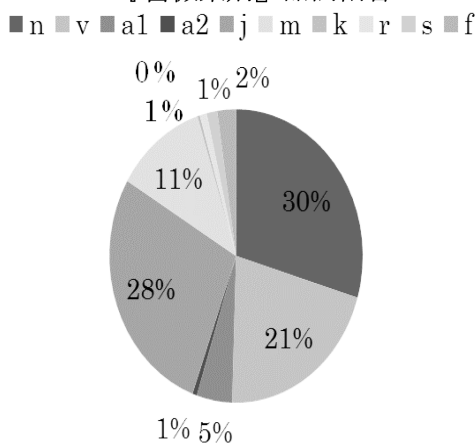
[表 1 - 2]

『月光嗜好症』品詞割合



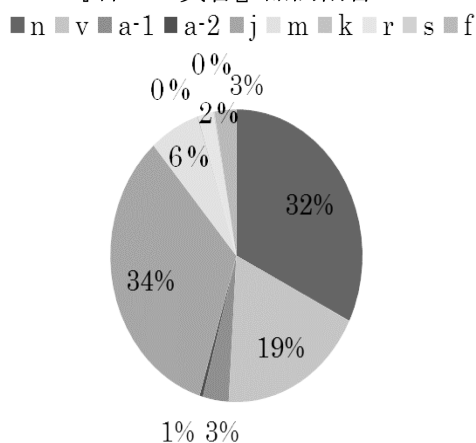
[表 1 - 6]

『薔薇架刑』品詞割合



[表 1 - 3]

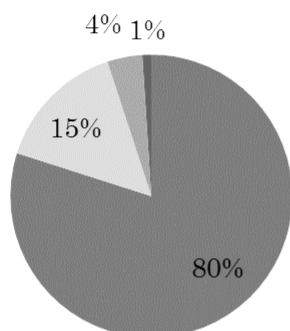
『神々の黄昏』品詞割合



[表 2 - 4]

『Dilettante』 語種割合

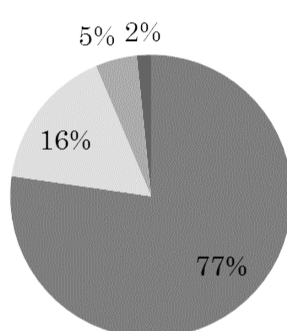
■和語 ■漢語 ■外来語 ■混合語



[表 2 - 1]

『Aristocracy』 語種割合

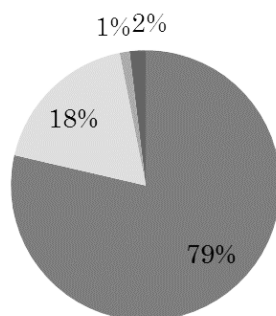
■和語 ■漢語 ■外来語 ■混種語



[表 2 - 5]

『Psychedelic Insanity』 語種割合

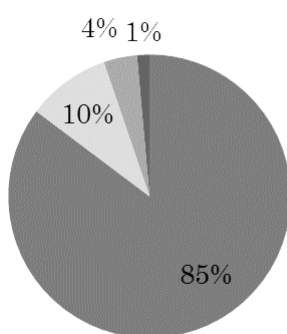
■和語 ■漢語 ■外来語 ■混種語



[表 2 - 2]

『月光嗜好症』 語種割合

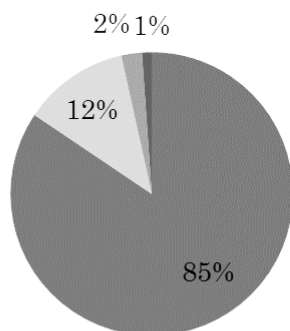
■和語 ■漢語 ■外来語 ■混合語



[表 2 - 6]

『薔薇架刑』 語種割合

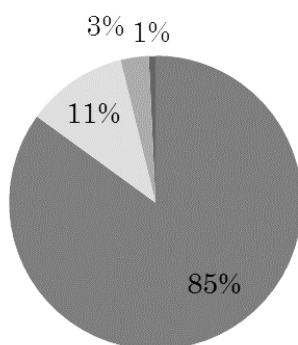
■和語 ■漢語 ■外来語 ■混合語



[表 2 - 3]

『神々の黄昏』 語種割合

■和語 ■漢語 ■外来語 ■混種語



五 まとめ・考察

五・一 品詞

各アルバムのパースセンテージから見ても品詞の使われ方は、差がほとんど見られない。すべて同じようなグラフとなっている。アルバムごとに品詞の偏りによって特徴を出しているわけではなさそうだ。

名詞と動詞と助詞が抜きんで割合を占め、形容詞、形容動詞の割合が少ない。歌詞の傾向として、名詞↓助詞↓名詞といった繰り返しや体言止めが多用されているためであろう。形容詞で直接的に表現せずに、ものや状況や動作から感情を表現しているようだ。比喩が多用されていることからわかる。ここになんらかの意図があるのではないか。

アルバム内でも曲調がはっきりと別れていることに対し、使われている品詞の頻度がほとんど同じということは、その品詞の意味の中に特徴が見られるということであろう。

五・二 語種

和語の割合が八割とほとんどを占めている。熟語でも敢えて訓読みをしている語が多い。そのため、歌詞の中で熟語が少ない訳ではないのに、漢語の占める割合が一割におさまったと思われる。ルビがなくては読めない漢字も多く、それが曲にも、音楽以外の視覚効果をもたらしているのだろう。

五・三 今後の方針

今後は更に名詞と動詞の分析を行う必要がある。歌詞中の頻度数や、各名詞をその意味から種類分けして調べることによって、特徴をとらえ

ていきたい。

また、今回はのべ語数によって統計したが、異なり語数で統計し直すともた違った結果になるだろう。助詞の異なりの少なさから、自立語の名詞の比率が増えるだろうと予想される。そして、語種においての和語の割合だが、これは自立語と付属語をわけていないためにこういった結果になっただろうと思われる。付属語を除いて、自立語だけで集計するとまた違った結果になるだろう。

今後はまた、データの分析や扱い方についての知識が必要になってくる。このデータの内容から、いかに意味を見出すが課題となるだろう。今回のデータをもとに他の形でも分析をし、目的を達成させていきたい。

参考文献

- ・伊藤雅光「表記からみた松任谷由実の歌詞」(『日本語学』一九九七年)
- ・伊藤雅光「ユーミンの言語学」(『日本語学』一九九七年)